



市川レポート

中東情勢の緊迫化でドル円は163円台へ～為替介入の有無を探る

- 足元で中東情勢が急速に緊迫化したことを受けて、ドル円は約39年7カ月ぶりとなる163円台へ。
- この先は為替介入の有無が焦点、ただボラティリティ水準が低く為替介入を急ぐ段階にはなからう。
- ボラティリティと財務省・日銀の動向に注意、ドル円年末予想165円は円安方向へ修正を検討中。

足元で中東情勢が急速に緊迫化したことを受けて、ドル円は約39年7カ月ぶりとなる163円台へ

7月21日のニューヨーク外国為替市場ではドル高・円安が進行し、ドル円は一時1ドル＝163円24銭水準をつけ、約39年7カ月ぶりとなる163円台に到達しました。背景には、足元で中東情勢が急速に緊迫化したことを受け、基軸通貨で流動性の高いドルに一時避難的に資金が流入する、いわゆる「有事のドル買い」が優勢になったと推測され、同日のドルは、円を含む先進国の主要通貨に対し、上昇する動きがみられました。

中東情勢については、米国が7月20日まで10日連続でイランを攻撃しており、イランも湾岸諸国の米軍施設を攻撃するなど、両国の応酬が続いています。また、親イラン武装組織フーシは20日、サウジアラビアに対し、紅海を念頭に「海上封鎖」を即時実施すると宣言、さらにトランプ米大統領は21日、イランの核関連施設があるとされる地域を近く非常に激しく攻撃すると警告しており、米国とイランが再び全面衝突する懸念が強まっています。

【図表：直近でドル売り・円買いの為替介入が行われた際の各種データ】

実施年月日		金額	ドル円の水準	ドル円のボラティリティ	
				1週間	1か月
2022年	9月22日	2.8兆円	145円台後半	14%台前半	13%近辺
	10月21日	5.6兆円	151円台後半	18%近辺	15%台後半
	10月24日	0.7兆円	149円台後半	20%台前半	16%台前半
2024年	4月29日	5.9兆円	159円台後半	17%台前半	12%台前半
	5月1日	3.9兆円	157円台後半	10%台前半	9%台後半
	7月11日	3.2兆円	161円台後半	7%台前半	8%台半ば
	7月12日	2.4兆円	159円台前半/158円台後半	9%台後半/9%近辺	9%台前半/8%台後半
2026年	4月30日	11.7兆円	160円台半ば	8%台前半	7%台後半
	5月1日		157円台前半	9%台前半	7%台後半
	5月4日		157円台前半	9%台後半	8%台前半
	5月6日		157円台後半	8%台後半	7%台後半

(注) ドル円の水準とボラティリティは為替介入が行われたと推測される直前の数値。2024年7月12日は日本時間の朝と夜の2回為替介入が行われたと推測される。ドル円のボラティリティは通貨オプションのATM（アット・ザ・マネー）インプライド・ボラティリティ。2026年の日付は推測。

(出所) 財務省の資料とBloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



この先は為替介入の有無が焦点、ただボラティリティ水準が低く為替介入を急ぐ段階にはなからう

ドル円が163円台に乗せたことで、ここからしばらくは、政府・日銀によるドル売り・円買いの為替介入が行われるか否かが焦点になるとみています。なお、直近で為替介入が行われた際のドル円の水準や、通貨オプション市場での予想変動率（ボラティリティ）は図表の通りです。これを見ると、ドル円の163円は、ドル売り・円買いの為替介入が実施されても違和感のない水準と考えられます。

一方、ボラティリティに目を向けると、最も低い水準で、期間1週間は7%台前半、期間1カ月は7%台後半で、為替介入が行われています。そこで、直近のボラティリティを確認してみると、期間1週間は5%台半ば、期間1カ月は6%台前半となっており、過去に為替介入が行われた際に比べて低い水準にあることから、政府・日銀が急いで為替介入を行う段階には、まだないように思われます。

ボラティリティと財務省・日銀の動向に注意、ドル円年末予想165円は円安方向へ修正を検討中

今後、注目すべきは財務大臣や財務官の発言で、特に「常に準備はできている」、「急激な変化は容認できない」などは、為替介入を意識した発言と考えられ、また、日銀が金融機関に相場水準を聞く「レートチェック」も、為替介入に近いシグナルと判断されます。ドル円のボラティリティがもう一段上昇し、これらの発言やレートチェックが確認された場合は、為替介入への警戒を強める必要があると考えます。

弊社は日銀の金融政策の見通しについて、政府の姿勢を鑑み、7月17日時点で25ベースポイント（bp、1bp=0.01%）の次の利上げ時期を10月から12月に変更した一方、米連邦準備制度理事会（FRB）は年内9月と12月に25bpずつ利上げを行うとの見方を維持しました。弊社はドル円の年末着地水準を165円と予想していますが、日銀の利上げが遅れる点を勘案し、ドル高・円安方向への修正を検討しています。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会